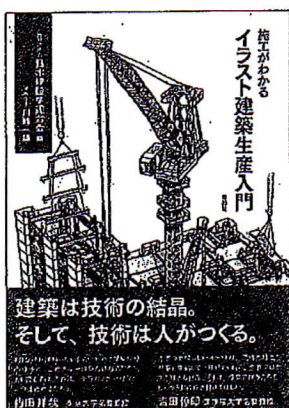


日本建設業連合会（日建連）の建築生産委員会（葛田守弘委員長）は、建築の施工や生産活動を分かりやすく解説した教本『施工がわかるイラスト建築生産入門』＝写真＝を刊行した。ものづくり大学と共同で企画し、建築のすべての生産プロセスに技術者や技能者がどう

携わっているか、その役割や施工のポイントをイラストや図を多く使ってまとめた。3200円（税別）。彰国社が販売し、全国の書店で11月1日から購入できる。

建築生産委員会施工部会（木谷宗一部会長）が主体となって作った。三原斉ものづくり大教授が協力し、大手、準大手ゼネコンによるワーキンググループ（WG）を立ち上げ、内容を詰めた。「建築生産のしくみ」「着工から竣工まで」「維持・保全・改修工事」「解体工事」の4パートで構成。大型工事を題材に施主・ゼネ



『施工がわかるイラスト建築生産入門』刊行

コン・サブコンの役割や仕事を紹介し、工事にかかわる職人を多く登場させた。竹中工務店で勤務経験のあるイラストレーターの川崎一雄氏が描いた800点以上のイラストを載せた。

タブレット端末を使った配筋検査などを紹介する「トピック」、現場用語の語源を取り上げるなどした「豆知識」も収録。施工管理に携わる入社3年目の男性や入社8年目の女性などのキャラクターを登場させ、ものづくりの楽しさや仕事の魅力が伝わるエピソードを交え、成長する姿も描いた。巻末には「ネットワーク工程表」など登場するキーワードの解説を入れた。

学生の教科書、若手の教育ツールに

大学などの講義では多くの建設関連の教科書が使われるが、施工や生産については実際の作業をイメージしにくかったり、難解だったりする内容が多い。現場の作業のポイントや、前後の作業との関係などが分かりにくい教材も少なくない。木谷部会長は「教員から『講義にじっくりくる教材がない』と指摘されていた」という。教本は「学生や技術者たちの案内役となるこれまでにない本」（木谷部会長）としてPRする。教科書、元請・下請業者双方の研修テキストなどとしての利用を期待している。